

## 平成31年度 学校自己評価表（計画段階・実施段階）

76

福岡県立福島高等学校長 印

(1/4)

学校運営方針		学校運営計画（4月）			評価（3月）	
学校運営方針		校訓「正大」「剛毅」「優美」を身に付け、自己探求し、自己実現のために努力する生徒の育成			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
[成果] ・長欠、中退者の減少 ・「わかる授業」作りのためのシステム改善 ・コミュニケーション力主体性育成のための基盤作り ・進路実績の向上 [課題] ・新しい時代に対応した学びの力と主体的態度の育成 ・進路実績の更なる向上 ・広報活動の強化 ・安定した志願者確保	学力の向上	「わかる授業」のために授業改善に取り組み、学び直しや主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習を通じて、生徒に基礎学力と応用力を定着させる。また授業や家庭学習を通じて、主体的に学ぶ態度・人間性を醸成することにより、「3年後、一つ上の階段にいる自分を目指す」生徒を育成する。[鍛える]				
	キャリア教育の充実	3年間を通じた系統的・探究的なキャリア教育を推進し、次代に求められる新しい学びの力や志の育成を図ることにより、生きる力を身に付けさせ、社会人として自立していくことができる人物を育成する。[鍛える]				
	規範意識を育て、道徳性を養う心の教育の推進	自己肯定感を高め規範意識の涵養と礼儀の大切さを教え、道徳的実践力を高めるために、学校行事と絡めた7Hearts教育や教育活動全体を通じて、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度、及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を育成する。[鍛える・ほめる]				
	部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の活性化及び学習環境の整備・充実	様々な体験を通してコミュニケーション能力を高め、人間関係を構築させるとともに、来年度に迫った110周年記念行事等を契機として学校への帰属意識を向上させる。[鍛える・ほめる]				
	開かれた学校づくり	ボランティアや学校行事、発表会等を通じ、地域へ貢献し、教育活動を公開すると共に、学校の広報活動の推進を積極的に図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教育推進部 (教務課) (研修課)	学力向上（教科の指導による家庭学習の定着・観点別評価の実施を含む）	生徒の意欲を喚起する授業（主体的・対話的で深い学び（AL、ICTの活用））の実施にあたって、研修課と連携し、研究授業及び授業参観週間の実質的效果を挙げる。また、スタディーサポートの目標値の設定・検証を年2回（8月・3月）に実施する。	A	B	○教科ごとの観点別評価ガイドラインについては、3学年3学期の評価の実施において、ある程度推進された。次年度は本校全体及び各教科の評価規準・基準を文書化する。  ○「総合的な探究の時間」と各教科の学習との連動、また教科横断的な学びを促進し、それを実現可能にするための新学習指導要領における教育課程を編成する。  ○家庭学習時間の全学年平均は87.3分（昨年比-10.9分）である。教科担当者による予習・復習の徹底や週課題の実効性を高めていく。	
		観点別評価の実施と生徒ポートフォリオへの活用のため、1学期に職員研修を実施し、8月末までに本校の観点別評価ガイドライン（各教科別）をまとめ、ガイドラインに沿って生徒ポートフォリオに学習の成果等を記入する。	C			
		教科担当による予習・課題の徹底と学習時間調査の簡略化を行う。教科担当者は知識・技能を定着させるための予習・課題を課し、年に5回、1週間ずつ時期を固定した学習時間調査を実施する。自学ノートを発展的に解消し、週課題を実施する。	B			
	新学習指導要領実施に向けた教育課程の編成	各教科が育成を目指す資質・能力を明確にし、教科ごとに教育課程の原案を作成し、「教育課程検討委員会」でまとめる。	C	B		
		キャリア教育部（進路指導課）と連携して、「総合的な探究の時間」における探究活動及び教科横断的な学びを促進する。	B			
	「総合的な探究の時間」実施のための環境整備	「ホームルーム」の計画的実施によるキャリア教育・学級運営・人権教育を推進する。	B	A		
		「自己力・役割力・課題解決力・発信力」等、本校が目指すコミュニケーション能力を育成するために、教科科目の授業においても個人・グループによる探究活動を充実させる。	A			
		学期に1回学校生活アンケートを実施する。	A			
		7Hearts教育は学校行事における指導の観点とし、各分掌・学年と連携して実施する。	B			
	校内研修及び校外研修の充実	他の分掌との連携を強化し、本校の教育課程に即した職員研修を年間6回実施する。	A	B		
校外研修や異校種授業参観などを広報し、参加の促進を促す。		B				
初任者に対して、職員の協力体制による充実したプログラムを構築する。		B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教育推進部 (教務課) (研修課)	授業改善の促進	本校のアクティブ・ラーニング目標を設定し、全職員の共通理解を図る。各教科においてはアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善に取り組む。	B	A	A	
		本校のアクティブ・ラーニング目標に沿った研究授業を複数教科において実施し、ICT機器の活用や思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を目指す。	A			
		職員研修において観点別評価をテーマにした研修を計画する。	A			
		授業参観月間や公開授業日、授業アンケート月間を設定し、授業改善に取り組む。	B			
		教務課と連携し、効果的な研究授業及び授業参観を実施する。授業参観月間・公開授業を設定し、公開授業日に中学校教員が参観出来る機会を設ける。	A			
		教務課と連携し、委員会や全校及び学年集会を通じて、福島高校授業規律7つの約束「きもちにふしめ」の実践を喚起する。	A			
図書館利用を活性化	図書館だよりを定期的に発行し、図書館利用を促す。合わせて図書館来館の契機となる行事の企画・実施に取り組む。	A	A			
	図書委員会の活動を充実させるため、外部研修会への参加や広報誌の作成、読書週間の取り組み等を積極的に行う。	A				
	アクティブ・ラーニングを促進させることで、図書館利用の活性化を図る。	B				
キャリア教育部 (進路指導課) (キャリア企画課)	第一志望での進路実現のための学習・指導体制の確立	生徒の学力向上のために、課外授業を充実させる。	A	A		A
		推薦入試を積極的に利用し、第一希望での進路実現のために学年と連携しながら、指導を充実させる。	A			
		公務員の合格者をより多く出せるように、専門学校との連携をさらに充実させる。	A			
	キャリア教育の推進	キャリア教育の視点に立ち、様々な場面を通じて、自己の進路を考える機会を設定する。	B	A		
		外部講師を招いた講演会等を実施し、進路意識の向上を図る。	A			
		ボランティア活動、インターンシップ等の体験活動に積極的に参加させる。	A			
	「総合的な学習の時間」のさらなる充実と「総合的な探究の時間」への継承	2・3年生の「総合的な学習の時間」については、これまでの蓄積をもとにしながら各学年と連携を取り、さらなる充実を図る。	A	A		
		1年生で先行実施される「総合的な探究の時間」は、推進委員会を通じて早めの計画立案、密な連絡調整を行う。	A			
		「総合的な探究の時間」推進委員会を定期的に開催し、次年度以降の2・3年生での実施を踏まえ、内容の検討・充実を図る。	A			
進路情報の取集と発信	大学入試改革等の進路情報を収集し、生徒や保護者に向けて情報を発信する。	B	B			
	進路実績や進路関係の行事等の内容を生徒や保護者、地域に向けて発信する。	B				
	生徒の活動記録を蓄積し、ポートフォリオ化できるような仕組みを検討する。	B				
生徒育成部 (生徒指導課) (健康管理課)	問題行動・いじめの撲滅	いじめアンケートを実施、情報を共有化する。	A	A	B	
		SNSの正しい使用について講習会を開く。	A			
		情報の共有を図る。	B			
	交通マナーの育成	登下校指導の実施により、交通マナーの向上を図る。	B	B		
		原付バイク講習会の実施により、運転技術の向上を図る。	A			
		交通事故、違反に対する指導措置について見直す。	B			
	生徒会活動の活性化	各種委員会の活性化を図る。	A	A		
		体育大会・文化発表会等の内容の再検討を行う。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒育成部 (生徒指導課) (健康管理課)	生徒および職員の心身の健康の保持増進を図る。 (生徒の健康管理、保健教育・保健指導を行う)	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒の身体状況の基礎的な把握を行う。	A	A	○次年度は、全学年が4クラスとなるため、計画の立て直しや変更が必要になるため、年度当初から分掌会で検討する必要がある。 ○保健委員会の活動は定着化しており、継続的に運営する。また、新たな取り組みについて、生徒を中心に計画・実行していきたい。 ○美化委員会は地道な活動を続けている。もっと発信し、活動の幅を広げたい。 ○ホームページ上での発信ができていない。次年度は、できるだけ多くのことを発信したい。 ○生徒の保健室利用は落ち着いている。学校生活が落ち着いているためだと思われるが、SCや訪問相談員への相談希望は例年並みで、問題を抱える生徒の早期対応を行う必要がある。 ○防災避難訓練・危機管理マニュアルは毎年点検し改善していく。
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。	B		
		保健委員会掲示板を活用し事故防止や注意喚起等を行う。それらの活動を行うことで、保健委員の活性化及び自己肯定感・有用感を高める活動を行う。	A		
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行い、ホームページに載せ、保護者向けに広報する。	B		
		性と心の相談事業（1年生対象に性の講演会）を実施する。	A		
	学校管理下での事故防止に努める。 (安心・安全な校内学習環境の整備・充実を図る)	生徒保健委員による救急法（含む熱中症対策）講演会を実施し、部活動や体育大会等の体育的行事における安全対策（熱中症予防対策等）を充実させる。	A	A	
		生徒美化委員会を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。	B		
		防災避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	A		
		学期に1回の校内安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに担当部署に連絡・働きかけを行う。	A		
		危機管理マニュアルを作成・配布し、職員に周知徹底し、危機管理体制を整える。	A		
	担任・学年・教育相談委員会で連携・協力体制の発展を図る。 (長期欠席・中途退学等の防止を図るとともに、特別支援等の在り方を考える)	様々な問題を抱えた生徒に対し、多方面からの支援等を検討するために『教育相談委員会』を開催し検討する。	A	A	
		生徒の保健室利用状況を基本的に学年に毎日報告する。	A		
		3日連続欠席者に対して、実態に応じて担任・学年団により家庭訪問を実施する。	A		
		SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。	A		
		修学支援・特別支援コーディネーターによる業務を支援する。	A		
第1学年	当たり前のことを当たり前に行うことのできる生徒を育成する。	挨拶の励行、時間の厳守（5分前行動）、服装を整える、清掃をきちんとするなど基本的なことを徹底して指導する。	A	A	○時間厳守・挨拶励行・正しい服装・掃除を行うなどの「当たり前のことを当たり前に行う」ことを今後も継続して指導する。 ○皆勤者（84人※11月現在）についてはこれを維持する。 ○週課題の意義を説明し、家庭学習時間平日2時間・休日3時間以上を目標に指導していく。（1・2学期学習時間平均67分） ○各学期ごとの指導を徹底し、成績不振者の減少に努める。 ○各教科と連携し、ベネッセの実施する校外模試偏差値50・GTZB2以上（国英）の生徒20名以上を目指す。 ○2者面談を各学期2回以上実施し、早期に生徒の希望進路を決定する。 ○学年での7Heartsの授業などを通して、リーダーシップのとれる生徒を育成する。 ○中間学年としての意識を高める。 ○学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図っていく。 ○学年終礼を定例化し、横のつながりを深めることができた。この取り組みについては継続して行い、学年の団結力を育むとともに、リーダー育成の場として活用する。
		遅刻・欠席の多い生徒に対して、家庭・教務部・生徒指導部と連携して指導する。	A		
		皆勤者80名以上を達成する。	A		
	基礎学力の充実、家庭学習の習慣化を行い、学力向上に努める。	各教科と連携し、小テスト・課題などで学習時間90分以上を目指す。	B	B	
		手帳を用いて計画的に行動することのできる生徒の育成に努める。	B		
		週課題を通して学力の向上に努め、成績不振者の減少を図る。	B		
		スタディーサポートなどの外部模試を利用し、生徒の学習状況を把握しながら、1つ上のステージに上がるよう細やかに2者面談を行う。	B		
	主体的な行動を取る生徒の育成を行うとともに、自己実現の土台作りを行う。	総合的な探求の時間やHRなどを通して、自己理解を深めながら、自らの進路意識を高め早期の進路決定を促す。	A	B	
		進路ガイダンスの実施、オープンキャンパス・インターンシップへの参加を通して生徒の進路意識の向上を図る。	B		
	学校行事や部活動などに積極的に取り組む生徒を育てる。	学校行事の意義や目的を理解させ、意欲を持って積極的に参加させるとともにリーダーシップのとれる生徒を育成する。	A	A	
		部活動を奨励し、生徒の忍耐力・協調性・社会性を培うとともに、部活動加入率70%以上を目指す。	A		
		学年のリーダーを育成し、週に1回学年終礼を行い、学年の団結力を高める。	A		
	1学年団として一致団結し、安心・安全な学校作りを行うとともに、学年団として生徒を支援・指導していく。	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の指導をしていく。	A	A	
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価評価 (3月)		次年度の主な課題
第2学年	学習習慣を定着させ、学力の向上を図る。	各教科と連携して小テストや課題など学習時間を増やす取り組みをし、基礎・基本的学習内容の習得を図る。	B	B	<p>○時間を守る・挨拶をする・服装を整える・掃除をきちんとするなどの基本的なことを更に徹底して指導していく。</p> <p>○皆勤者(2学期90人)、課外出席率(2学期95.7%)については、目標を達成するように指導をしていく。</p> <p>○週課題などの提出物を必ず出させ、家庭学習時間平日2時間・休日3時間以上を目標に指導をしていく。</p> <p>○考査1週間前の学習会を継続し、成績不振者の減少に努める。</p> <p>○校外模試国英総合偏差値50・GTZB2以上の生徒30名以上を目指す。</p> <p>○総学などを利用して、早期に生徒の希望進路の決定をする。</p> <p>○あらゆる場面で人権について話をするので、いじめのない学年・学級をつかっていく。</p> <p>○学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図っていく。</p>
		各教科の提出物(週課題など)を必ず出させ、家庭学習時間120分以上を目指す。	C		
		皆勤者80名以上、課外出席率95%以上を達成する。	B		
		定期考査1週間前の考査前学習会などを実施することで、成績不振者の減少を図る。	B		
	進路意識を向上させる。	総合的な学習の時間や二者面談・三者面談などを通して、生徒の進路目標を明確にさせる。	B	B	
		オープンキャンパスやインターンシップなどへの積極的な参加を促し、生徒の進路意識を高揚させる。	B		
	主体的に行動できる生徒を育成する。	中堅学年として学校行事・生徒会活動・部活動等に積極的に参加することにより、リーダーとしての自覚を持たせる。	B	B	
		挨拶の励行、時間の厳守(5分前行動)、服装を整える、清掃をきちんとするなど基本的なことを継続して指導し、下級生の模範となるようにする。	B		
	2学年団として、一致団結して生徒を支援・指導していく。	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の指導をしていく。	A	B	
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。	B		
第3学年	自己の可能性を信じて最後まで努力し、希望進路を実現する生徒の育成	進路指導部と協働して、進路意識を向上させ、就職率100%及び国公立大学を含む四年生大学80名以上合格の実現を図る。	C	B	<p>○大学希望者が専門学校への進学に変更する生徒が多かった。模試等を活用して明確な目標を持たせ、それを達成するスモールステップの指導を行っていく必要がある。</p> <p>○学習については、授業への積極的な参加は継続できたが、家庭学習時間を増加させることが課題である。</p> <p>○体育大会については練習期間を含めて最高学年として相応しい態度で臨むことができていた。各行事において主体的に行動することが求められる。</p> <p>○挨拶について、誰に対しても自ら適切な声で行えるように指導したい。</p> <p>○出席皆勤者の数が少なかった。体調管理に努めさせ、規律正しい生活習慣を築かせる必要があった。</p> <p>○学年会を通して情報共有を確実に行うことができた。指導の徹底や会議をスリム化するため、各分掌内での連絡調整を更に充実させる必要がある。</p>
		個人面談を定期的に行い、個に応じた情報の提供や心理的なサポートを行う。	A		
		各種検定試験や模擬試験を積極的に受験させ、自己の可能性を広げさせる。	B		
		授業への集中力を高めさせるとともに、平日2時間、休日3時間以上の家庭学習を継続できるように指導する。	B		
	最高学年としての自覚と誇りを持ち、主体的に行動する生徒の育成	各式典や全校行事において、最高学年に相応しい態度と心構えで参加させる。	A	A	
		目的や課題を明確に示し、学年のリーダーを中心に活動する場を設定する。	A		
		挨拶・時間厳守・清掃活動等の凡事徹底を図る指導を行う。	B		
		出席皆勤100名以上を目指し、1日の振り返りと明日の計画を考える場を設定することで自己管理を徹底させる。	B		
	社会に貢献できる生徒の育成を目指した学年団の協働体制の強化	社会の変化を敏感に捉え、教員相互の意志疎通や情報交換を積極的に行う。	A	A	
		学年会議を毎週実施して現状を把握し、課題と方策を共有して組織的改善を図る。	A		
生徒や保護者、職員相互の信頼を高め、安心・安全な教育環境づくりに努める。		A			
企画広報課	各分掌と連携した円滑な学校行事の遂行	年間行事予定表を基に各分掌と連絡・調整・確認を行い、翌月・翌々月までの行事予定表を提示する。(遅くとも月末までに)	A	A	<p>○行事の確認が、やや遅くなっていたので、もう少し早めに確認して、動き出すことが必要である。</p> <p>○ホームページについて、各担当者からデータをもらうなどして、分掌として積極的に関わっていく。</p> <p>○中学校訪問では、各学科交替で担当できたことはよかったが、すべての先生方が共通認識をもってアピールしていく方向でも進めていく。それにより学校説明会に係る先生方の負担の軽減につなげた。</p>
		各行事等を早期に立案し、各分掌・係などと連絡・調整をし、遺漏なく遂行できるようにする。(立案は遅くとも一か月前を目途に)	B		
		課内で各行事の責任者を設定し、役割分担を明確にする。	A		
	地域(中学校・小学校・塾等)への広報活動の充実	各分掌・係、各学科などと連携し、福島高校全体の広報活動の充実を図る。	B	A	
		ホームページを定期的に更新し、魅力ある内容になるよう工夫する。(各項目、最終更新日時が2019年となるように。アクセス数の増加。)	B		
		本校のアピールポイント及びイメージが伝わる学校案内を作成する	A		
		学校通信「もちの木」を定期的に発行する。(年4回程度。)	A		
		中学校訪問を積極的に行い、生徒に関わる情報交換を密に行うとともに、学校全体の説明だけでなく、各学科の特色についてもアピールする。(年5回程度。)	B		
		中学校PTAの来校を受け入れ、本校教育活動への理解と浸透を図る。	A		
		中学生に対する学校説明会に参加し、本校教育活動を中学生にアピールする。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
企画広報課	地域（中学校・小学校・塾等）への広報活動の充実	進路相談事業のステージ発表や展示を工夫し、本校の魅力を参加者にアピールする。	A	A	○進路相談事業や中学生体験入学などの行事は、他分掌との連携をもっと強くするためには、早めに動き出す必要がある。 ○中学生体験入学については、各学科に分かれての説明は好評であったが、時間調整をする必要がある。 ○公開授業は、広報活動の一環として、もっとアピールできると思われる。 ○企画と広報の役割分担をもう少し明確にして担当していく。
		中学生体験入学では在校生に主体的に関わってもらうことで、本校の魅力を中学生や保護者にアピールするとともに、体験活動などを充実させる。	A		
		広報活動のスリム化・効率化を検討するとともに、小学校などに対する広報活動について検討する。	B		
	業務分担の見直し、互助会等行事における職員間の親睦	業務内容を検討し、見直すべき課題を検討する。	B	A	
		課内で各行事の責任者を設定し、役割分担を明確にする。	A		
		課内における協体制度だけでなく、他分掌等からの協力も得られるようにする。	B		
		親和会行事の計画・実施を円滑に行い、職員全体の親睦を図る。	A		
PTAソフトバレー大会等、PTA関連行事への協力を図る。	B				
互助会行事の参加の呼びかけを行う等、福利厚生を充実を図る。	A				
総合ビジネス課	基礎学力を定着させ、高度な資格取得への意欲を喚起し、進路目標の実現をはかる。	簿記・電卓・情報処理等の資格取得に合格できる力がつくように課外授業や放課後等において指導する。	A	A	○3年生においては早期の進路指導及び希望進路の決定が必要であるが本年度は充実した指導ができなかった。主体性を持たせて早期に希望進路を決定させる必要がある。 ○未来を担う人材育成事業・社会人特別招聘事業等の講演会を通して学習意欲や進路選択に良い影響を与えられたと思う次年度も継続的に内容を充実させたい。 ○広報活動においては、中学校訪問や中学校来校時において総合ビジネス科ニュースをうまく活用できていない。必要な時期に必要な情報を提供できればと今後検討していく。 ○小論文指導については、4月の早い時期から継続して指導していく。
		生徒の学習到達度に合わせて資格取得における効果的指導を行うために、簿記会計や情報関連科目については習熟度別授業を実施する。	A		
		実用英語検定など専門科目以外の各種検定に挑戦を促し、進路指導充実のため小論文指導や面接指導を実施する。	B		
	地域社会において柔軟な対応ができる態度を育成する。	言葉遣いやビジネスマナー等の重要性や必要性を考える機会を設定する。【社会人特別講師招聘事業（3年生対象）】	A	A	
		地域の商工会議所や関連企業と連携をとり、地域経済の現状やビジネスに対する心構えを聞く機会を設定する。【地域産業連携事業（1年生、2年生各学年1回）】	A		
	総合ビジネス科の広報活動を実施する。	ビジネス科ニュースを通して学年ごとの活動や学習状況などを記載し、生徒や保護者その他中学校などへ配付する。	A	A	
総合ビジネス科の活動内容を中学生や保護者に中学生への出前授業や進路説明会等を通して生徒の声を交えながら丁寧な説明を心がける。		A			
生活デザイン科	授業を生かした資格取得やコンクールへの応募を意欲的に挑戦させる。	高等学校技術検定（食物・被服）において3級全員合格させ、2級に全員挑戦させる。	A	A	○学校行事や社会人招聘事業、未来を担う人材育成事業を通して、コース毎に専門性の高まりが見られ、生徒の意欲の向上に繋がった。中学生体験入学など新たな取り組みを行い、学科の広報活動に努めた。次年度もコース制導入の広報や地域連携など強化していく。 ○家庭科技術検定の受検の精選と学科行事の見直し、教育課程の検討を進めてきたが、来年度も継続的に行っていく。 ○保育実習や商品開発などを実施していく中で、連携先の負担や要望などを考慮しながら進めていかなければならない。 ○第2調理室の新設にあたり必要備品の要求を申し出たが、実現に至っていない。継続的に要望していく。
		3つのコースで学んだことを生かして高等学校技術検定（食物・被服）1級にそれぞれ挑戦させる。	A		
		サービス接遇検定・ビジネス文書検定など職業において必要とされる資格取得に挑戦させる。	B		
		デザイン画や調理のコンクールへ積極的に応募させ、九州大会・全国大会レベルで受賞できるよう指導を行う。	B		
	進路目標につながるよう上級学校との連携及び社会人招聘事業を実施する。	生活産業で活躍する卒業生による進路講話を実施する。	A	A	
		進路目標・コース選択につながるよう1年生の2学期に上級学校訪問を行う。	A		
		3つのコースにつながるような専門家による特別招聘授業を実施する。	A		
	生活デザイン科の特性を生かし、地域社会へ貢献させ、その実績を広報活動につなげる。	地域の店舗で販売してもらえるよう食品分野で商品開発を行う。また、地域のイベントで生徒が開発した商品を直接販売するようにする。	A	A	
		保育所実習や保育所交流を行い、保育分野で地域との交流を図りながら、現場実習を行わせる。	B		
地域の行事等でファッションショーを行い地域に披露する。また、生徒が開発・製作した商品を地域で販売する。		A			